

わ

が

街

わ

が

故

郷

せちばる
(株)ツバキ・ナカシマと佐世保市世知原町

(株)ツバキ・ナカシマ送風機事業部(世知原工場)と
世知原町周辺について

送風機事業部(世知原工場)の紹介

所在地 〒859-6413

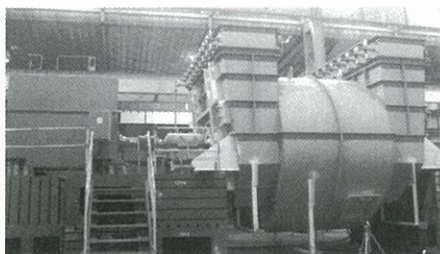
長崎県佐世保市世知原町筭瀬

723番地1

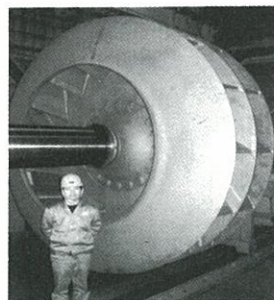
電話番号 0956-78-2221(代表)

(株)椿本精工が(株)中島製作所と平成8年(1996年)4月に合併し、(株)ツバキ・ナカシマに社名変更して現在に至っています。

世知原工場は、旧中島製作所が昭和58年(1983年)長崎県の企業立地促進法に基づき、送風機の専門工場として新設しました。私たちは明治38年(1905年)の設立以来、約100年、さまざまな風を通じて近代産業の発展とともに歩んできました。伝統の技術と革新性を備え、発電所、製鋼所をはじめ近年では焼却炉、下水処理などの環境分野にも幅広く利用されています。



両吸込誘引ファン



後ろ向きターボ形羽根車

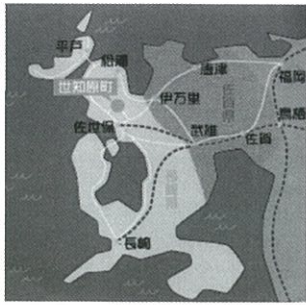


送風機事業部全景

世知原町の紹介

世知原町は周囲を山々に囲まれた高原の町で、北に松浦市、南に佐世保市、東は国見山を境に佐賀県伊万里市、西は吉井町に隣接し、海岸線の多い長崎県において、海岸線を持たない3町の一つです(吉井町、波佐見町)。また、国見山(標高777m)を源流とする県下最長流(21,370m)の佐々川が町の中央を東西に縦断して流れる、水と緑の自然資源の豊かな町です(面積32.02km²、

世帯数1,385戸、人口4,492人。



位置

世知原町は、平成17年（2005年）4月1日、佐世保市、吉井町との一市二町の合併により新「佐世保市」に生まれ変わり、昭和15年（1940年）の町制施行以来65年の歴史に幕を閉じました。

明治26年（1893年）松浦炭鉱の開鉱より、かつては石炭産出で栄えましたが、エネルギー革命の余波を受けて閉山。昭和45年（1970年）には町内から炭鉱がすべてなくなり、過疎化が進行しました。翌年には国鉄世知原線も廃止され、その後は製茶業など農業が産業の中心となっています。

観光名所

歴史民族資料館（県有形文化財）

明治45年（1912年）松浦炭鉱事務所として建造された、大変めずらしい石造洋風建築です。現在は北松炭田の歴史を中心に、炭鉱操業時の工具や資料が数多く展示されています。心地よいタイムスリップを感じてみませんか？



歴史民族資料館

倉渕橋（大正8年）（橋長 20.6m、幅員 4 m、橋高8.1m）

世知原町内には明治、大正、昭和初期に架橋された16のアーチ式石橋群があり、佐々川の水面に美しい姿を映しています。現在も一部生活道路として利用されています。これら石橋は古き良き石の文化を感じる風景です。



倉渕橋

山暖簾

黒川紀章建築都市設計事務所の手による緑風香るやすらぎの宿です。一度宿泊してみませんか？



山暖簾

催し

じげもん市

「じげもん」とは地元の物という意味で、毎年お茶を中心に町内でとれる農林産物を売り出す「じげもん市」が開催されます。毎年多くの買い物客で賑わっています。



じげもん市

長崎せちばるロードレース

昭和49年より、長距離ランナーの競技力向上と青少年の健全育成を目的に開催され、毎年1000名を超えるアスリートが集うスポーツイベントとして定着しています。

種目

一般 10km

年少 3 km



長崎せちばるロードレース

名産物探索

世知原茶

世知原町は県下で雲仙に次ぐ高冷地で降雨量も多く、三紀層の玄武岩土壌で茶樹の育成に最

適な地帯です。霧と高原が育む銘茶の里として、全国表彰を受けるなど静岡、京都の宇治茶と並び品質面で高い評価を受け、文字通り「世に知られる町づくり」を続けています。



茶摘み

世知原町名産！おいしいお茶の入れ方

- まず心を込めて入れること。
- 1人あたり適量の2g（適温70度～80度）をきゅうすへ注いで約1分。
- 湯飲み茶碗へ残さずつぎ分けます。2煎目ではお湯を入れてすぐ注いでください。ビタミンCの栄養素は2煎目までです。

